



# 京都 YWCA

# 1 2017

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## YMCA/YWCA 合同祈禱週集会

### すべての人が安心して生きられる社会を目指して

### ～障害者差別解消法と『津久井やまゆり園』障害者虐殺事件から考える～

11月12日、恒例のYMCA/YWCA 合同祈禱週集会が京都 YWCA で開かれました。

#### 障がい者の「いのち」を考えるポイント

最初の発題者は、京都市伏見区にある児童発達支援センターや重症心身障害者通所事業などを擁す「愛隣館」で活動されている平田義さんです。障がいがあるとはどういうことか、自立とは何かについて、脳性麻痺をもつ柏木正行さんや障がい児の小中謙吾さんとの出会いから話されました。「障がい者の自立は支援者との関係を地域で豊かに結ぶ中で育まれていく」のだが、社会は障がい者を生きている一人の人間と見ているのでしょうか。



発題者の平田義さん



発題者の村田恵子さん

政治家の差別的発言（「人格はあるのかね」）は、ナチスの安楽死作戦や、戦時中の日本軍部が障がい者に青酸カリを配り、肢体不自由児は一般の人からも「穀つぶし」と見られていたなどと同じ優生思想によるものです。重度の障がい者、高齢者などを排除していくことは別におかしくないという社会の価値観が、障がい者のためと称している法律の根底にもあるのではないかと、平田さんは危惧されます。その中で障がい者の「いのち」を考えるポイントとして、①優性思想からの解放、②多様性を認め合う社会、③誰もがかけがえのない命を与えられた存在とみなされることの3点を挙げられました。糸賀一雄博士の「この子らを世の光に」を一步進めて、「この子らは世の光」であると締めくくられました。

#### 女性であり障がい者であること

次の発題者の村田恵子さんは、障がいをもつ当事者であり、頸椎損傷者京都連絡会会長をしておられます。女性であり障がい者であることは二重に生き辛いことだというのが最初の言葉でした。京都新聞の調査で強制不妊手術が本人の同意なしに少なくともこれまで89人に行われたことがわかったそうです。人権以外に女性という性さえ奪われがちなのです。村田さんが制定に関わってこられた「京都府障害者権利条例」によって知ってもらいたいことは、障がい者も「人格・人権がなければならない」ことであると言われました。村田さんは40歳で障がいを持たれたそうですが、「最初に気付いてほしいのは障がい者のことは「わからない」ということ。その中で一人ひとりが自分のペースで障がいのある人のことを理解するよう積み上げてほしい」と語られました。

#### ともに生きるために

活発なグループ討議のあと、平田さんからは、インクルーシブな社会という意識をどのくらい日々もっているかが大事であり、これからは支援者も当事者も社会にもっと訴えかけ、障がい者と地域とが関わり合える社会にする働きをしたい、村田さんからは「交わる」ということに尽きる、難しいことを考えずに関係をつくることを意識してもらいたいというコメントをいただきました。

障がいのある人々と主体的に関わっていくことが、「優生思想」とは逆の「いのちの大切さ」を知る第一歩となることを学びました。

(篠田茜)

－ YWCA コミュニティーカフェ訪問記－

「Yカフェ パーショ」(横浜) と「Y's コート ゆい」(東京板橋)

横浜 YWCA

パーショとはエスプレント語で「歩み」の意。最初に訪問した横浜 YWCA 「Y カフェ パーショ」は、生きづらさを抱えた女性の就労支援の場として、地域の競争を避けてそれまであった「花花カフェ」が今年9月に生まれ変わったものだそう。精神疾患の女性だけでなく、児童養護施設の中高生やひきこもり経験のある方なども就労訓練の対象者として受け入れ、自己肯定感の少ない彼女たちを支え、共に育っていくことを目指していると説明を受けた。

「YWCA は、もはや信頼のブランドであり YWCA が営業することに価値があると考えて、安いものを提供するというのをやめ、YWCA という付加価値を価格にプラスし、活動を続けようと考えている」という。ちなみに、以前は「ランチ + コーヒー」で 600 円だったが、現在はランチは毎水曜日のみ、グリーンカレーまたはハッシュドビーフを 600 円で、他の日は多彩



横浜 YWCA カフェにて

な 300 円のドリンクメニューのみになっている。食べ物の持ち込み OK だし、WiFi もあり、仕事もカフェでできるそう。私たちがお話を伺っている間にも、男性 2 人がティータイムに現れた。

東京 YWCA

次に訪れたのは、東京 YWCA 板橋センター「Y's コート ゆい」。地域の求めと応援をもとに「障がいのある人の“働く”と“暮らす”の支援」を目指しておられる。要支援の子どもたちを受け入れる「Kid's ガーデン」、そこから連続してグループホーム「ハイホー」があり、「Y's コート ゆい」にカフェレストラン部門、受注作業部門、自主製品製作部門を設置している総合的施設だった。週 4 回の「日替わりランチ」、週 1 回の「ミラクルメニュー (お楽しみメニュー)」等、いずれも 550 円。京都 YWCA 「うららかふえ」の倍の広さのキッチン、すっきりとまとまり設備が整っている。調理のプロの力を借りて、収益事業と位置付けておられた。



東京板橋 YWCA カフェ看板

横浜、板橋、京都、いずれも社会的弱者支援の視点を持ち、それぞれの特徴を自覚しつつ、自分たちらしく進んでいると感じた訪問だった。

(内田匡子)

シリーズ 若者からの発信 ④

シリーズ「若者からの発信」第 4 回目は、京都 YWCA の小学生の子ども居場所「ガジュマルの樹」などでボランティアとして関わり、現在大学院生として教育学を学んでいる塩山隼月さんです。

教育・子ども・夢 —インドから日本を見つめて—

私が初めて京都 YWCA と関わったのは 3 年前で、それ以来「ガジュマルの樹」のプログラムを中心に活動しています。その時から今も変わらず、“京都 Y”の中に入ると家に帰ってきたような、ほっとした気分になります。

私は現在大学院でインドの女子教育について研究しています。現地調査のため、2016 年の夏にインドはマハラシュトラ州ブネー近郊のケドガオン村にあるキリスト教系福祉施設にてフィールドワークをしました。そこは、家族からの暴力を受け、離れて暮らす子どもや地元の子どものための幼稚園から女子中等教育校まで (日本の中学・高等学校相当) の教育施設、盲学校、障がいを持つ生徒の学級を含んだ施設、障がいを持つ女性のための職業訓練施設、教会や畑もある一つのコミュニティでした。見学中出会った幼稚園の先生は両親と共に暮らせず、その施設内で育ち、幼稚園から高校まで過ごしました。その後、幼稚園教諭になるという夢を叶えるため、ブネーの YWCA で幼稚園教

諭の免許を取り、同施設で幼稚園教諭として勤めていました。その時、京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」と似たものを感じました。児童養護施設を退所した子どもがほっとできる場所、彼女らの自立援助を提供する「カルーナ」と、夢を叶えたいと思う子どもを助けているブネー YWCA とが一致しました。

私が研究している教育学とは、「人は教育を受けたら何らかの形で進歩向上する」と信じるからこそ成り立つ学問だと思っています。子どもたちが教育を受けても、次に社会で活躍できる受け皿やサポートがあるかが問題で、教育学を学ぶ人々にとっても悩ましいところです。京都 YWCA で、子どもたちの将来を信じ、子どもたちが受けた教育を社会にどのように活かせばよいのか、そのために私は何ができるのか、その可能性を探してみたいと考えています。

(塩山隼月)

## 今年も五感全開で楽しんだ「あきまつり」

時々顔を見せる太陽の日差しがいとおしく感じた晩秋（11月23日）の午後、日頃の活動を紹介しつつ、親子で楽しい一日を過ごして頂くとう、親・子育て支援活動委員会主催で「あきまつり」が開催された。参加者は、0才から高齢者まで、初めての方々、以前親子のプログラムに通っていた親子など、また当日お手伝いのボランティア、自立援助ホーム「カルーナ」のメンバー、会員など、入場者数は合わせて140名ほど。

子どもたちはスタンプカードを持って好きなコーナーを回り、最後はスタンプの数で景品がもらえる。ロビーではバルーンアート、綿菓子、今回初めての絵本交換コーナーが設けられた。ミニホールでは、初参加の京都女子大学人形劇団「たんぼぼ」による「なかよし」とタオル劇場「なにができるかな」の公演。隣の部屋では、今年結成15周年を迎えたYWCA親子ライブラリーのメンバーによる絵本の読み語りと「クリスマスのオーナメント」をつくる工作コーナーや「指圧」のコーナー。夏みかんが色付いている中庭に出ると「竹パン」コーナー、子どもたちが自分の

食べるパン種を真剣に炭火にあぶる、近いと焦げる、遠くでは焼けない、やっとできあがったパンを食べる様子がとても満足そう。サマリア館では、手作りおやつの販売。そしてホールでは、毎月2回開催している「親子のリズムあそび」の体験タイム、大人も参加しての「バリトン歌手とハモろう」タイム。

最後は音楽グループ「またあいに」のコンサートライブ。「365日紙ひこうき」、「夢をかなえてドラえもん」など誰もが知っている歌、オペラ「カルメン」より「闘牛士の歌」まで様々なジャンルの曲を楽しみ、「世界にひとつだけの花」を元気に歌って終了した。見る、聞く、歌う、作る、食べる、話す、動く、五感を使って体いっぱい楽しんでいただけたと思う。

（坪野えり子）



### クリスマスバザールへのご協力、ありがとうございました！

12月3日（土）に恒例のクリスマスバザールを開催しました。お天気にも恵まれ、たくさんのボランティアや寄贈品などのご支援をいただいで無事に終了しました。



ご協力ありがとうございました。

入場料収入（京都YWCA東日本大震災被災者支援に寄付）：49,500円

#### バザー協力者一覧（敬称略）

株式会社 ユニティー、山田松香本店、(株)ティ・エム・エス、飯室商店、(株)マイチケット、西京都共同購入会、(有)プロジェN、(株)田中工務店、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所、安全農産供給センター、日本パフ(株)、寺岡有機醸造株式会社、伊那食品工業株式会社、(株)進々堂、十三や、松栄堂、(株)象彦、(株)京生麩大野、グループキッコロ、上村愈巳子、近藤純弘、山本公平、福嶋節子、吉岡恵津子、有田孝子、北村保子、池上信子、坪野えり子、浅野久代、清水義、御前明美、花岡正義、荒木喜代子、堀部和彦、篠田茜、一色光世

### クラウドファンディング「カルーナ奨学金」募金目標額を達成！ご支援ありがとうございました。

京都YWCA自立援助ホーム「カルーナ」では、さまざまな形の暴力被害の経験を持ち、社会的養護が必要な10代後半の女性たちの自立を支援しています。



しかし、彼女たちは20歳になると退去しなければならず、社会的支援はほとんどなくなります。

そこで、不登校や中退等の体験をもつ彼女たちが退居後も働きながら学び続けることを支える奨学金制度のために、11月にクラウドファンディングサービス「READYFOR」を通じてインターネットによる募金を開始しました。「働きながら学ぶ‘社会的養護が必要な女性’を奨学金で応援したい」というタイトルで61万円の目標額を設定しました。目標額に40日以内に達成しなければ集まったご寄付は寄付者に返却されます。

広く呼びかけた結果、お陰様で多くの皆さまから共感をいただき、目標額を無事に達成することができました。皆様からの温かいご支援に心からお礼申し上げます。

（上村愈巳子）

今後のプログラム

◎多文化理解プログラム2016 イスラムにふれよう②  
 支援団体「ラーラ会」元代表  
 柄子眞弓(からこまゆみ)さんを迎えて

- 日 時：2017年1月14日(土) 14:00～16:00
- 場 所：京都YWCA ミニホール
- 参加費：一般700円、学生・YWCA会員500円、留学生350円(お茶菓子付き)
- 定 員：30名

第95回定期会員集会

- 日時：2017年3月11日(土) 13:00～16:00
- 場所：京都YWCA ホール
- 主題：「隣人を自分のように愛しなさい」  
(マタイによる福音書 22章 39節)
- 午前中に高齢者住宅サラーム訪問(任意)  
集会后「オークション」開催予定

ご寄付ありがとうございました。

2016年10月1日から11月30日  
 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

樋口久美子、猿橋正子、勝山久仁子、川島康史、森律子、岡佑里子、山村茂代

各指定寄付

\*多世代多文化ふれあいコミュニティーづくりのための改修募金  
 宮武美知子

\*運営委員会

イエニックふたみ、運営委員会有志

\*生涯教育クラス事業委員会

伊藤千佳子

\*親・子育て支援委員会

赤尾陽子、ウチら困ってんねん@京都、親子ライブラリー有志

\*APT

常光和穂、清水弥生、メンセンディーク マーサ、大畑泰次郎、山下真、神門佐千子、神岡茂子、阿久澤麻理子、安藤いづみ、森律子、岡佑里子、APT 有志

\*国際委員会

小寺敬子、宮武美知子(委員会及びにほんご教室洛楽へ)

\*ショップ委員会

カーフさんを囲む会有志

\*広報委員会

有田税理士事務所

\*うららかふえ運営委員会

宮武美知子、御前明美

\*サービス付き高齢者向け住宅「サラーム」

サラーム運営委員会有志

\*自立援助ホーム「カルーナ」(寄付、後援会費)

浦田雅夫、小宮一子、筒井奈都子、小寺敬子、岩井一枝、神門佐千子、横川幸治、山上義人、城島圭子、名古屋YWCA セーフティサポートグループ、匿名1名

\*自立援助ホーム「カルーナ」教育奨励金

岩崎明生、安永雅代、北垣景子、匿名1名

\*賛助費

田中愛子

機関紙 No.535 にて、ご寄付いただいた方のお名前が間違っております。

訂正しお詫び申し上げます。

誤：片岡ユズル 正：片桐ユズル

京都YWCA サービス付き高齢者向け住宅

「サラーム」入居者を募集しています。

「サラーム」は60歳以上の女性を対象にしたバリアフリー住宅です。

京都YWCA本館2階にあり、安心・安全な生活を送っていただけるとともに、さまざまなプログラムに参加する機会があります。

お気軽にお問い合わせください。

(<http://kyoto.ywca.or.jp/salaam/>)



11・12月/理事会報告

- 「会員になりませんかキャンペーン」実施中(2016年度後半の新規入会者は会費半額)。
- 「南京の記憶を今につなぐ」映画上映とトークイベント(12/5)に広報協力。
- 若者の就職支援に取り組む団体への京都府助成(5年間)を申請し認定された。自立援助ホーム「カルーナ」入居者等が就労支援事業の利用を開始している。
- 産休育休をとる職員に代わる新職員が12月半ばより着任。
- クラウドファンディングサービス「READYFOR」を介した自立援助ホーム「カルーナ」の退所者奨学金募金は指定期間内に目標額を達成(本紙3ページ記事参照)。
- 財務部：会館設備の保守費用に関する「メンテナンス募金」を実施予定。
- ボランティア受入体制、若者育成、組織の発展的整理等を引き続き検討。

KYOTO YWCA No.536

2017年1月号(1月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL <http://kyoto.ywca.or.jp>

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財)京都YWCA

定 価 50円